



「敬老パス」は 高齢者の健康・くらし・いきがいの足

今、札幌の高齢者が燃えています。市が敬老パスの「見直し」を言い出し、有料化など改悪へ世論づくりを始めているからです。10月に再結成された「札幌敬老パスを守る連絡会」(竹中九仁男代表)は、この間街頭宣伝、地域へのビラ配布、署名、議会要請と請願、市民集会などにとりくんできました。同会には現在28老人クラブ、1町内会、33団体が加入し、「現行制度の存続を求める請願署名」も2万1000筆を市議会へ提出しています。冬の札幌の熱い運動を紹介します。

一、敬老パスは今のまま存続を ——市長へ要望

札幌市清田区の釜澤久子さん(七十二歳)は、上田文雄札幌市長へ「病院へ行くにも、買物に行くにも敬老パスがないと困ります。年金は少なくなるし、介護保険料は上がるし、敬老パスが変えられると私以上になくさん困る人がいると思う」と現行制度の継続を要望しました。

一二月一二日、連絡会の市長要請行動に参加した釜澤さんは、集合時間の一時間以上も前に来て代表にと勧められ、「生まれて初めて」市長に話しました。

釜澤さんは三〇年前に夫に先立たれ、その後二二年間保育園の用務員をしながら一家を支えてきました。今は夫の遺族年金と自分の国民年金で、月五万八〇〇〇円程が生活費の全てです。冬は自宅の木材等を薪ストーブの燃料にするなど節約しています。「持家だから何とか生活できるけど、ギリギリですよ。今年は介護保険料も国民健康保険料も上げられて、食費を切り詰めるしかないね。これで敬老パスまで変えられたら出かけることもできない。私はこの間三五〇人以上の人に署名をしてもらいました」と、苦勞を感じさせない明るさで笑いました。

二、高齢者を敬愛し…

札幌市敬老優待乗車証は、一九七五年から制度がスタートし、当初の市交通のみから民間バスにも拡大され、現在は七〇歳以上二〇万人の内一六万人に利用されています。交付規則の趣旨には、「多年にわたり社会の発展に寄与してきた高齢者を敬愛し、明るく豊かな老後の生活の充実を図るため」とされておられ、まさに敬老精神によってできた制度ということがよく分かります。

上田市長は、七月の議会答弁で敬老パスの「見直し」を示唆し、九月には市民アンケートの予算を計上、一一月に実施しました。同市長の「元氣ビジョン」でも、すこやか健診と並んで敬老パスが行財政改革の具体例にあげられています。

敬老パスは九七年にも「見直し」議論になりましたが、連絡会の運動をはじめ、八万五〇〇〇を超える署名など世論の高まりで、「申告制」に変えられたものの、最終的に制度の基本は守られました。その後も、〇二年の市「中期財政見直し」と今後の財政運営の考え方の中で「適正な受益者負担」として敬老パスが対象になりました。以前も今回も「財政事情」「受益者負担」が強調され、「敬老」は置き去りにされたようです。



「敬老パス」は高齢者の健康・くらし・いきがいの足

三、敬老パスは市財政を

圧迫している？

現在の敬老パスに使われている予算は約三・五億円、毎年約二億円ずつ増加すると市は宣伝しています。しかしこれは一般会計の〇・四一％で、市の予算を一〇万円とすると四一〇円にしかありません。なぜ敬老パスがやり玉に挙げられるのでしょうか。

市財政の困窮は福祉にお金を使ってきたからではなく、大型開発事業やハコモノ行政の結果です。今話題の、札幌駅から大通りへの地下通路にしても「財政難であるのに、二〇〇億円もかけてすぐにつくる必要があるのか」という声が連絡会にはたくさん来ています。

受益者負担でも、高齢者が直接お金を受け取っている訳でもなく、利用した時に初めて受益があるだけで、直接的には財政は市交通とバス事業者に払われています。制度創設当時を知るある古参市議は、「もともと敬老パス事業は、市交通への二次的な財政補助の意味があった」と語っています。

敬老パスをことさらとりあげる背景には、今後の家庭ゴミ有料化やすこやか健診料引き上げなどの、「受益者負担」の地ならしのためと指摘する声も強くあります。

四、高齢者の切実な足

連絡会に寄せられる高齢者の声で最も多いのは「通院に利用している」というものです。遠くの医療機関へ通う高齢者も多く、貴重な足となっています。

またある老人クラブの会長さんは「市の老人クラブの会合に行ったり、クラブの用事で出かけたりする時はこのパスのお陰で助かります。交通費がかからないからできるのです」と言っています。

市が一二月に中間発表したアンケートでは、現行のまま一七〇歳以上が五四％（七〇歳未満二九％）、見直し縮小一七〇歳以上三五％（七〇歳未満四六％）と、高齢者の多くは現行制度のままを希望しています。

同時に「負担は仕方がない」と言う高齢者も少なくありません。しかしそのほとんどは①廃止されるよりは負担してでもパスを残してほしい、②市の財政も大変そうだから負担は仕方がないという善意、③負担は仕方がないかもしれないが、自己負担がない方が本当はよい、という気持ちが多いのです。

老人医療費の改悪のように、自己負担を増やして返って重症化を招くのではなく、高齢者にいつまでも元気で健やかに暮らしてもらえるよう敬老パスを活用することが、結果的には介護・医療の費用も抑え、商業地域の

の活性化にも役立つのではないのでしょうか。

五、市民の声が決め手

〇四年一月にはアンケート結果と市長提案が発表される予定です。有料化の方向性が濃厚ですが、九七年の運動のように市民世論の盛り上がりで市長、議会を動かすことになるでしょう。

一二月の市議会要請や市民集会是連絡会の予想を越える人々が参加し、敬老パスの改悪に危惧を抱く高齢者・市民の「なんとかしなれば」という思いが集まりました。「老人パワー」は札幌でも健在です。

